

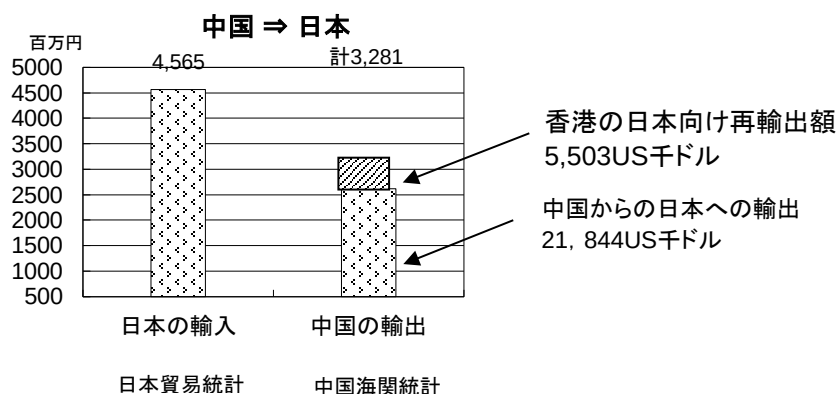
❖ 香港の再輸出と中国貿易について

本統計は中国国内税関による通関統計である。

一般に2国間の輸出入の数値は価額評価の違い、集計時点の違いなど統計上の制約から一致しないものだが、香港が輸出入の中継地になっている中国にとって不突合のもっとも大きな要因になっている。つまり、中国側はたとえ香港経由で輸入されたものでも、あくまで原産地により元の輸出国で集計するが、輸出する側は、とりあえずの仕向地（輸出時点での最終仕向地）である香港向け輸出として計上する。逆もまた同じである。

中国は輸出入ともにこの香港経由の取引が依然として大きいので2国間（日本⇄中国）だけで見た場合、その不突合も大きくなるわけである。

香港は、香港原産の香港品の輸出と、香港が輸入した外国製品の輸出を再輸出として区別しており、再輸出は香港の総輸出額の9割を占める。香港から中国以外に再輸出される多くが中国本土を原産地とするとみて、香港の再輸出額を中国の輸出額に加算して、相手国の輸入額と比較しなおしてみると、その差異は大幅に縮まることがわかっている。個別の品目をみる場合も、分野によってはこの香港経由の輸出入を考慮する必要がある。



例) ボールペン(数量)

